

日本思想学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史特論Ⅰ	仏菩薩と文献史料のあいだ	2	富樫 進	後期 金曜日 2講時	
日本思想史特論Ⅱ	怪異から考える日本思想史	2	木場 貴俊	通年集中 その他 連講	
日本比較思想史特論Ⅰ	西欧化日本の研究	2	片岡 龍	後期 火曜日 3講時	
日本文化思想史特論Ⅰ	日本の思想文化	2	片岡 龍	前期 月曜日 3講時	
日本思想史総合演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔 片岡 龍	前期 水曜日 4講時	
日本思想史総合演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍 引野 亨輔	後期 水曜日 4講時	
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍 引野 亨輔	前期 水曜日 5講時	
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍 引野 亨輔	後期 水曜日 5講時	

科目名：日本思想史特論 I / History of Japanese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：富樫 進

コード：LM25201, 科目ナンバリング：LJS-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：仏菩薩と文献史料のあいだ
2. Course Title (授業題目)：Between the Buddha, Bodhisattva and the literature
3. 授業の目的と概要：この授業では現存する仏像を導入部に据え、日本古代の文献史料に登場する仏菩薩がどのようなかたちで信仰の対象とされていたのかという点を、思想的関心に基づいて考察・検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, we will consider and examine how the Buddha and Bodhisattva, which was taken up in ancient Japanese literature, was the object of worship. In considering this issue, we use the existing some Buddha and Bodhisattva images as an introduction to the argument.
5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、主に文献史料の読解を通じて、日本仏教思想史をめぐる諸問題を分析する方法を修得することである。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to acquire a method of analyzing various problems related to the history of Japanese Buddhist thought, mainly through reading Japanese literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は履修者による発表（および質疑応答）の内容をふまえ、担当教員が講義を行う。第 1 回：ガイダンス／第 2 回：イントロダクション／第 3 回：釈迦如来／第 4 回：盧舎那如来／第 5 回：毘盧遮那如来／第 6 回：薬師如来／第 7 回：阿弥陀如来／第 8 回：聖（正）観音菩薩／第 9 回：変化観音菩薩／第 10 回：文殊菩薩／第 11 回：地藏菩薩／第 12 回：四天王／第 13 回：吉祥天／第 14 回：毘沙門天／第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：
平常点（出席点、および担当回の発表内容）55%、期末試験（レポートの場合あり）45%
9. 教科書および参考書：
教科書：プリントを配付する。参考書：授業中に適宜指示する。
10. 授業時間外学習：発表担当となった履修者は事前に発表資料を作成する。また、発表担当者以外の履修者は各自予習・復習を行い、不明な点については質疑応答の際に発言できるようまとめておく。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：日本思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：木場 貴俊

コード：LM98802, 科目ナンバリング：LJS-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：怪異から考える日本思想史
2. Course Title (授業題目)：Cultural History of Japanese Thought about Strange Phenomena
3. 授業の目的と概要：「怪異」あるいは「妖怪」と表現される物事を歴史学的に理解することを目標とする。具体的には、「怪異」や「妖怪」に関して、単純に「いる・いない」と二項対立的に捉えるのではなく、「なぜ人々はそうした物事を記録し、また対応したのか」という、人のいとなみとして考察する。日本近世の状況を中心に見ていくが、古代・中世、そして近現代との関連性についても取り上げる。史料も文字史料だけではなく、絵画や映像などを使うことで、多角的に理解できる内容にする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The goal is to historically understand what is described as "Strange Phenomena" or "Youkai." Specifically, with regard to "Strange Phenomena" and "youkai," instead of simply considering "existence / non-existence", consider as a human activities "why did people record and respond to such things?". We will focus on the situation in the early modern period of Japan, but we will also discuss the relationship between ancient and medieval times and modern times. By using not only textual historical materials but also paintings and videos, the contents can be understood from various angles.
5. 学習の到達目標：歴史学の研究対象とならないように思える物事でも、学問の手続きを踏めば研究対象に昇華することができるという視角と手法を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal is to acquire the perspective and method that even things that do not seem to be the subject of historical research can be sublimated into the subject of research by following academic procedures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義形式で授業を行う。

第1回 「怪異」あるいは「妖怪」を考える、ということ
第2回 歴史的産物としての「妖怪」
第3回 林羅山と怪異1
第4回 林羅山と怪異2
第5回 本草学と怪異1
第6回 本草学と怪異2
第7回 言葉から見る怪異1
第8回 言葉から見る怪異2
第9回 天譴論と天運論
第10回 古賀侗庵と怪異1
第11回 古賀侗庵と怪異2
第12回 化物絵
第13回 都市と地方の中の怪異
第14回 ひろたまさきの「妖怪的世界」
第15回 近代化と怪異
8. 成績評価方法：
授業への参加度 (30%)、レポート (70%)
9. 教科書および参考書：
木場貴俊『怪異をつくる 日本近世怪異文化史』(文学通信、2020)
また、授業中に資料や論文を適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：教科書や授業で紹介した参考文献を読み、予習や復習に役立てること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本比較思想史特論 I / Comparative history of Japanese thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

Semester : 2 学期 単位数 : 2

担当教員：片岡 龍

コード：LM22301, 科目ナンバリング：LJS-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西欧化日本の研究
2. Course Title (授業題目) : Study of Westernization of Japan
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（三枝博音『西欧化日本の研究』からセレクト）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the text (Saegusa Hiroto "Study of Westernization of Japan").
5. 学習の到達目標：世界文化の中における日本文化の位置を把握する。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Understand the position of Japanese culture in world culture.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表はテキスト批評を主眼とする。

第1回：ガイダンス

第2回：序論-日本の文化の摺みどころ（一 気 / 二 器用 / 三 虚）

第3回：第一章 日本人にとっての芸術①（一 西欧思想以前の日本の芸術）

第4回：第一章 日本人にとっての芸術②（二 ひとつの芸術論-歌論 / 三 昔の日本のある芸術-茶道）

第5回：第一章 日本人にとっての芸術③（四 西欧化以後の文学論）

第6回：第二章 日本人にとっての人間解釈①（一 日本人にとっての法の思想 / 二 日本人にとっての教育思想）

第7回：第二章 日本人にとっての人間解釈②（三 日本人にとっての道德思想 / 四 日本人にとっての修養）

第8回：第二章 日本人にとっての人間解釈③（五 日本人にとっての兵法 / 六 日本人にとっての儒教）

第9回：第三章 日本字にとっての自然と歴史（一 自然はどう受けとられていたか〈その一〉

/ 二 自然はどう受けとられていたか〈その二〉 / 三 歴史はどう受けとられていたか）

第10回：第四章 日本人の学問と日本人の思索①（一 学問はどう受けとられていたか）

第11回：第四章 日本人の学問と日本人の思索②（二 哲学はどう進められたか）

第12回：第四章 日本人の学問と日本人の思索③（三 思索はどう深められたか）

第13回：第五章 日本人の宗教①（一 西欧の宗教と日本人のそれとの違い）

第14回：第五章 日本人の宗教②（二 仏教の庶民性と非庶民性 / 三 問題を提出したキリスト教）

第15回：第六章 西欧思想の受け入れ方

※第2～15回のテキストは三枝博音『日本の思想文化』からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本文化思想史特論 I / History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11301, 科目ナンバリング：LJS-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese thought and culture
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（三枝博音『日本の思想文化』からセレクト）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the text (Saegusa Hiroto "Japanese thought and culture").
5. 学習の到達目標：日本的知性の特質を把握する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Understanding the characteristics of Japanese intelligence.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表はテキスト批評を主眼とする。

第1回：ガイダンス

第2回：三枝博音の人と思想

第3回：序論（一 「日本的なもの」に就いて / 二 「世界に誇るべき」日本の文化）

第4回：第一章 日本文化の特質①（一 自然に親しむ民族 / 二 一つの例一俳句に就いて）

第5回：第一章 日本文化の特質②（三 更に一つの例一南画の論理に就いて / 四 日本文化の特質）

第6回：第二章 日本文化と思想性（一 思想性の分析 / 二 わが古典の思想性 / 三 思想の日本的とドイツ的）

第7回：第三章 日本の知的文化（一 知の日本的性格 / 二 日本人と論理的訓練）

第8回：第四章 日本人の自然解釈①（一 わが国自然哲学の曙光 / 二 日本における自然主義）

第9回：第四章 日本人の自然解釈②（わが国における自然解釈の歴史）

第10回：第五章 日本仏教とその思想①（一 仏教の私知的性格 / 二 仏教の遺産とその論理化）

第11回：第五章 日本仏教とその思想②（三 最澄論 / 四 仏教の日本化と源信）

第12回：第六章 日本儒教とその思想①（一 日本思想史と儒教 / 二 日本の市民社会的思想家）

第13回：第六章 日本儒教とその思想②（三 思想家貝原益軒に就いて / 四 安藤昌益の医学）

第14回：第七章 神道と宗教論の問題、第八章 易に就いて

第15回：第九章 経済論その他（一 経済論史に於ける海保青陵 / 二 農学の鼻祖としての宮崎安貞）

※第3～15回のテキストは三枝博音『日本の思想文化』からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史総合演習 I / History of Japanese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LM13402, 科目ナンバリング：LJS-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23403, 科目ナンバリング：LJS-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2
3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)
5. 学習の到達目標：研究論文の作成
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1、ガイダンス
 - 2、研究発表1
 - 3、研究発表2
 - 4、研究発表3
 - 5、研究発表4
 - 6、研究発表5
 - 7、研究発表6
 - 8、研究発表7
 - 9、研究発表8
 - 10、研究発表9
 - 11、研究発表10
 - 12、研究発表11
 - 13、研究発表12
 - 14、研究発表13
 - 15、研究発表14
8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]
9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』
荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』
『日本思想史辞典』(ペリかん社) ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史研究演習 I / History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13501, 科目ナンバリング：LJS-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

1、ガイダンス

2、研究発表 1

3、研究発表 2

4、研究発表 3

5、研究発表 4

6、研究発表 5

7、研究発表 6

8、研究発表 7

9、研究発表 8

10、研究発表 9

11、研究発表 10

12、研究発表 11

13、研究発表 12

14、研究発表 13

15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／History of Japanese Thought(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23502, 科目ナンバリング：LJS-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

論文 [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ペリカン社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし